

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	25221303	研究期間	平成25年度～平成29年度
研究課題名	幹細胞維持分子の機能解析と全身の幹細胞の可視化を目指した総合的研究	研究代表者 (所属・職) (平成30年3月現在)	中山 敬一（九州大学・生体防御医学研究所・主幹教授）

【平成28年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（意見等）

本研究は、全身の組織幹細胞における p57、Fbw7、Fbx15 の重要性を実証するとともに、全身での幹細胞の可視化技術を開発することを目的としている。

幹細胞維持機構の鍵分子とされる上記の3分子については、遺伝子改変マウスの作成・解析は着実に進展している。しかし、研究目的とした全身の幹細胞の可視化については進んでいない上、「全身」での可視化と言っても、心臓、血管系、腎臓、肝臓などは検討されていない。

魅力的な研究課題であるため、目標達成に向けて今後より一層の努力が必要である。

【平成30年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、概ね期待どおりの成果があったが、一部十分ではなかった。
A-	本研究では3種の転写活性因子の KO マウスの解析が行われ、それぞれの解析について精力的に論文発表されている。また、これらの転写因子が、ガン幹細胞や分化した細胞でのガン化にも関わるという新たな知見も得られている。
	一方で、3種の関連性についての知見については、今後の進展を期待する。